

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	修正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	J Med Virol 2007; 79: 734-742	日本におけるアラニアンミトランスフェラーゼ(ALT)高値 供血者の無症候性E型肝炎感染の現況を調べた。日本赤 十字血液センターでALT高値(61-476 IU/L)の献血者 6700名の血清検体を検査したところ、479名(7.1%)の供血 者が抗HEV IgG陽性であった。ALT $\geq$ 201 IU/L群はHEV RNA有病率が有意に高かった。ALT $\geq$ 201 IU/L群はHEV RNA有病率9名から得られたHEV分離ウイルスは遺伝子型3に 分類された。ALT $\geq$ 201 IU/Lの日本人の約3%はHEV株の 無症候性感染を有することが示された。
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.1): P203	2005年1月-2006年4月に北海道で献血者のHEV-RNAス クリーニングを行った。388,119名のうち、男性33名 (1/7,120)、女性22名(1/6,962)がHEV-RNA陽性で、g enotype 3が優勢であった。55名中40名は献血時のHEV 抗体陰性であり、後に陽性となった。HEV陽性者にはALT 値が上昇した人もいたが自覚症状はなかった。HEV-RNA は献血後、最長37日間検出された。HEV陽性献血者由来 の輸血を受けた患者7名のうち、少なくとも2名が感染し た。
												E型肝炎	肝臓 2007; 48(Suppl.1): O-178	発症前からのウイルス血症の推移、肝炎発症から凍結化 までの経過を観察しえた輸血後E型肝炎2例の症例報告 である。1例は輸血21日目にHEV RNA (genotype 4)が検 出され、44日目にピーク値を、もう1例は輸血後3日目に HEV RNA (genotype 3)が同定され、54日目にピーク値を 示した。HEVウイルス血症は潜伏期間を経て発現し、対 数増殖後約50日前後にピークを示し、その後AST、 ALT上昇と血中抗HEV抗体の出現を順に認めた。
685	2007/10/26	70685	日本赤十 字社	pH4処理解酸性人免疫グロブリン	pH4処理解 酸性人免疫グ ロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	E型肝炎	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.1): P203	70684に同じ
												E型肝炎	肝臓 2007; 48(Suppl.1): O-178	70684に同じ
												鳥インフルエン ザ	Transfusion 2007; 47: 452-459	70684に同じ
												クロイツツフェル ト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2007; 13: 162-164	70684に同じ